

# センターの概要

## 沿革

教育学研究科内において活動していたバリアフリー支援チームを母体として、2009（平成21）年4月に研究科附属センターとして創設され、翌2010（平成22）年4月に「バリアフリーシステムの在り方について学問的な体系化を図ると共に、バリアフリーに理解をもつ人材を育成する」という東京大学の基本目標に即するものとして、研究科附属研究施設として承認された。

## 理念

「一人ひとりの違いが、その人が生活をする上での障害をもたらすことのない世界」を創り出すために、バリアフリーに関する教育研究の体系化に貢献する拠点形成を目指す。ある人が「マイノリティ（ないし障害者）」であるということは、個々人のある種の「違い」が、その社会において「欠陥」として意味構築をされてきたことの結果である。

このように「マイノリティ」という存在が、文化的社会的に構築されてきたのであれば、それら文化社会の中に埋め込まれて差別を生み出してきた「バリア」を抽出し、記述し、顕在化することで、さまざまな専門領域の人々が力を合わせて「バリアを乗り越える」ための解決法を生み出すことが可能になる。

## 目標

センターの教育研究活動の目標として、文化や社会が歴史的にその構成員の一部に課してきた「バリア（障壁）」を可視化し、それを打ち破り、「学校も社会も多様な人間により構成されるのが本来の姿である」という市民社会の基礎概念の確立と普及を目指す。

## 事業

2017年度から2021年度まで継続した「バリアフリー教育開発研究センターの拡充整備」を踏まえ、2021年度10月よりFSI基金事業として、以下3つを柱とした新規事業を実施している。

1. 学校をハブとするインクルーシブな地域社会形成事業
2. インクルーシブな知性を育てる専門教育・教養教育カリキュラム開発事業
3. KYOSS（教育学部セイファー・スペース）の開設・運用

## 組織

本センターは、センター長、副センター長、専任教員1名、附属中等教育学校長、研究科内教員若干名（兼任）、およびセンター特任教員1名で構成されている。

さらに、本学教員（附属中等教育学校教員を含む）のうちから研究員を、国内外の他大学・研究機関と諸関係機関（教育委員会、国公立私立諸学校、教育・福祉・スポーツ等に関する社会実践機関等）から協力研究員を迎えて、教育研究および実践活動における連携・協力を積極的に図っていく体制を整えている。

○2022年度体制（職名は当時のもの）

〈センター長〉

小国 喜弘 教授

〈副センター長〉

野崎 大地 教授

〈運営委員〉

山本 義春 教授      額賀 美紗子 准教授

齋藤 兆史 教授      東郷 史治 准教授

能智 正博 教授      大塚 類 准教授

星加 良司 教授（＊専任教員）

飯野由里子 特任准教授（＊センター特任教員）